

横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会(第2回) 議事録

日 時：平成26年12月24日(水) 13:30~16:00

場 所：瀬谷区役所5階大会議室B

出席者：(1) 委員9名

間瀬勝一委員長、(以下50音順) 浅野康則委員、宇佐美あや子委員、小川肇委員、清水靖枝委員、鈴木紀代子委員、中野しずよ委員、新谷たか枝委員、松本幸一委員(50音順)

(2) 事務局等

区政推進課長、地域振興課長、文化観光局文化振興課、株式会社櫻井淳計画工房 ほか

欠席委員：相原副委員長、足立委員、佐々木委員

資 料：別紙のとおり

傍聴者：2名

議事内容

事務局

<定足数の確認>

「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」第6条第2項に「委員会は、委員の過半数の出席がなければ開催することができない。」とある。現在の出席委員数は、定数12名のうち9名であり、出席委員数は過半数以上で本会は成立している。

<会議の公開>

「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会運営要綱」第4条により、一般公開と定められており、本日2名の傍聴者がいる。

<議事録の確認>

第1回基本構想検討委員会の議事録について、記載内容等に修正等ないようであれば議事録は確定とさせていただきたい。

事務局

<議題等>

資料1~3、参考資料1~5説明

間瀬委員長

一つ目の、区民文化センターの目指す姿、基本理念について、皆さんからご意見を頂いて、事務局でまとめてもらう。それを次回以降、少しずつ文言を調整していくことにしたい。

瀬谷区における区民文化センターについて、どういう姿が望ましいか、こん

な区民文化センターが良いというようなことを、自由に、キャッチコピーのようにご意見を頂きたい。

**浅野委員**

「人に優しい空間」副題「アートが未来をひらくギャラリー」ではどうか。

機能美だけではなく、優しい空間を想定すれば、区民文化センターは人が集まる場所になることができる。アートを通じた縁で色々な人が関わって、人が集まる場としてのギャラリー、というものが提示できればいいと思う。

**宇佐美委員**

「人に優しい」という事は一番大事だと思う。生活していく中で、人のふれあいというものが繋がってくると思う。いろいろな方とふれあいながら、お互いに交わることでできるようになっていくのが一番いいと思う。

人が集まりやすいようなアート、伝統などの様々なテーマを考えて、人の交わりを繋げていくようなギャラリーになって欲しいと思っている。

**小川委員**

「文化を通して人づくり」ということをしたいと思っている。

体操教室、音楽教室、絵画教室、あるいは様々な DVD を観賞できる等、高齢者をはじめ小中高生、あるいは保育園、幼稚園児いろいろな方がいろいろなことをできる区民文化センターを造って、それを元にして人のふれあい、ふれあいから人づくり、ということができると良い。

人間の立ち居振る舞いや所作といったものを大切にしたい、瀬谷区独自の文化、区民文化センターに行けばそういうものがきちんと揃っている、ということから始めたいと思っている。形を整えれば心が整う。形と心の整った区民文化センターの、和の文化による人づくり、さらに地域づくり、というものを目指したい。

**清水委員**

「〇〇センター」と名前が付くと、そこにかかわる人、そこに興味を持つ人、持たない人というのは完全に分かれてしまう。自分で絵を描いたり音楽活動をしたり、様々なことをしている人は興味を持つ。あるいは、例えば子供たちのブラスバンドの発表の場というようなことであれば、それなりに興味を持つと思う。

大事なことは、文化というのは、本当はそんなに堅苦しいものではないということ。日常の生活の中にいっぱい文化はある。今回区民文化センターを造るにあたっては、文化は敷居が高いと思っている人たちに、生活の中に文化というものがあって、区民文化センターに行けばその象徴的なものがあるということは何とか分かってもらいたい。そうしないと、本来の人集めにはならないと思っている。そういった意味で、区民が何か感じることができる、瀬谷の歴史的な事も含めいろいろなことを味わえる。そういう区民文化センターにしたい。

実は、歴史資料館のような施設が瀬谷にはない。瀬谷かるたとか、瀬谷の民

話だとか、そういう伝統文化を忘れがちになっている。瀬谷の民話も、人形劇や影絵などで細々とやっているような状況だが、これらは瀬谷の文化の土台になっているものだと思う。文化は敷居が高いと思っている人たちに、決してそうではないよと思わせるような施設になったらいいと思う。

間瀬委員長

今の意見は基本になるところだと思う。

鈴木委員

公会堂があるので、同じものが2つあっても意味がない。何年も使える施設を造るとよいと思う。

戸塚の区民文化センターも知っているが、できたことによって戸塚の駅がすっかり変わった。駅に近く、人が大勢来ている。瀬谷も駅前に整備すれば便利になる。そういうことも含めて考えてもらえればいいと思う。

絵の展示について、大きな絵を掲げたら、皆さんに見てもらえるし、色々な刺激になるのではないかと思う。そのために展示室を造るべきだと思う。

また音楽などで使う場合、ちょっとした飲み物などを飲めるカウンターがあった方がよいと思う。

瀬谷では、部活がいろいろ盛ん。練習の場としても自由に使えて、そこに来た方々が元気になってもらえるとありがたいと思う。

また、瀬谷は高齢者が本当に元気。教わることも沢山あり、瀬谷区で学校をできてよかったなと思っている。お年寄りに元気になっていただくことで、若い人もそれを見習って活動的になるし、そのことが瀬谷を愛することにつながるのではないかと思う。

中野委員

「心をゆだねられる場」そこにいれば心が豊かになれる、スペースとしての場ではなく、もう少し抽象的な場。そこで出会える人たちとの関係性だとか、富士山を見て「本当に綺麗だな」と思うような場である。鎌倉郡のころから続いている環境に、心と体をゆだねながら、そこへ集える場。そして若い世代、子供の世代にまでつないでいける、この街を愛しているし、街に愛されている私たちがいるんだという実感できるようなスペースがあったら、それを核にして様々なワークショップ等、思いおもいにできる色々な活動を設けて頂けると良いと思う。

新谷委員

私なりのキャッチフレーズを言うとしたら、「知ってみよう、知らせてみよう」という言葉が好き。

歴史のあるものは、若い人たちは特に、古いものは嫌だと敬遠する人が多い。こうした区民文化センターができたときは、往々にして音楽にしても絵にしても、昔ながらのものだと、人が集まってこない。

だから、違うものを受け入れて、自分の今を知ってもらおう。そしてみんなが

受け入れやすい文化をつくってみる。そういうことができる場所ができれば、様々な分野の人たちと何かができる場所を作ったら、人が集まってくるのではないか。

私はインドネシアの竹の楽器をやって普及活動などを行っているが、ユネスコの文化遺産に指定されたことで、これまでとは逆に私たちのやっているピアノ風に変えた演奏法を、インドネシア大使館の人たちが習いたいと言ってくれるようになった。今までは自分たちのやっている音楽が日本人たちに理解されなかったが、その楽器で日本の音楽をやったら日本人たちが泣いてくれた。そこで日本の音楽をもっと知りたい、という広がりが出てきている。形は変わっていくが、関わる人はどんどん増えている。音楽をやっていなかった人たちも、例えば絵画と一緒にやる、障害者と一緒にやる、そうした場をつくってみたい。小さなことから始めればできることだと思う。その意味で、「知ってみよう、知らせてみよう」という言葉を申し上げた。

## 松本委員

瀬谷区の文化、歴史や伝統を提供していくというのは非常に難しいことかもしれない。そういったことをしっかり考えた上で、瀬谷区としての区民文化センターを造っていくことが大事。何を継承していくかということは難しいと思うが、楽しくないと人は集まらない。皆さんが言われたことをまとめたうえで、自由に集まれる区民文化センターであって欲しいと思う。

また、子供たちをしっかり巻き込んで、成長したらまた瀬谷区で教えたい、というようなことに重点を置いた、地域に根付いた考え方をとる必要があるのではないかと思う。

瀬谷区独特の区民文化センターとするためには、やはりネーミングも重要なので、考えなくてはいけないと思う。

区民文化センターには、福祉に関する相談もできる、なんでもできるよという自由参加のできる考え方が望ましい。障害者や高齢者、いろいろな方が一緒になって連携したイベントが継続されるような、新しい考え方を持っていければよいのではないかと思う。

区民文化センターだけを考えるのではなく、瀬谷区全体に、経済的に発展したり、いろいろなことが広がっていかなくてはいけないと思う。例えば瀬谷区の文化センターを訪れた人が、散歩しながら長屋門などの歴史的なところをぐるっと回りながら帰っていくというような、魅力あるものにしないといけない。またそこに来て見てみたいなという気持ちになる、そういう考え方で進めたら良いのではないかと思う。

区民文化センターができたなら、そことタイアップして地域全体で活性化する。そうした考え方を踏まえた上での区民文化センターであるべきなのではないか。

**間瀬委員長**

「未来につながる文化」「みんなのふるさと瀬谷に広がる文化のつながり」といった言葉の他に、人と伝統と、「知ってみよう、知らせてみよう」というようにもっとアクションというか前に行こうというような意見があったと思う。

基本理念ということで、これを基にして何をやるかということをして落とし込んでいくことになると思うが、今まで皆さんのご意見を伺った上で、もう一言ずつ何か補足したいということがあればお聞きしたい。

**浅野委員**

公会堂が既にあり、これは動的な要素。コンサートとか演劇とか、そういうものをできる場所が現実にある。区民文化センターは静的なもので良いと思う。ただしその中で、皆さんの色んなニーズに応えるためには、色々な顔を持つ空間というものを想像しても良いのではないか。展示だけではなくて音楽とコラボできる、あるいは練習を通して発表する場にする等。例えば3日間練習して3日間発表する、あるいは午前は練習で午後は発表等、使う人たちのニーズに合わせて変わっていける部屋を考えている。

**小川委員**

まち歩きの出発点。これを私のテーマにしたいと思っている。肩肘を張るのではなく、行ったら何か見ることができる、あるいは、ちょっと学ぶこともできるよ、というようなこと。

瀬谷区の名所の写真の下に簡単に添え書きをしたようなものを区民文化センターに置くような工夫をする、さらにそこに絵が常設で飾ってあって、それが時々掛け替えられている。そういう具合に、肩肘張らずに区民文化センターに寄れるようにしたい。また上か下の階に喫茶店が入っていたり、あるいはちょっとしたカウンターがあってコーヒーが飲めたりすると、そこでまたふれあいの場を持つことができる。

音楽も、街角でやっているような音楽を聴かせてくれるようなことがあっても良い。そんな個性を持った、夢のある区民文化センターを提案したい。

**松本委員**

区民文化センターの入口が、心の休まる清潔で気持ちの良いものにして欲しい。またそこに行ってみたいと思うような場が必要だ。中に入ったら様々な活動があって、動的なもの、静的なもの、なんでもいろいろなことをやっている。

そこで考えたいのは、その中で育った子供たちが結婚する時に、その区民文化センターで式典ができて、例えば私はここで音楽をやったので、音楽は仲間が来てやってくれるよ、というようなことが大事。思い出のあるものを造って頂ければ子供たちの印象にも残るし、また瀬谷に住みたいなということになってくる。そういうものを、お金は掛かるかもしれないが、掛けるところには掛け、掛けない所は掛けなくてやればできるのではないかと思う。

新谷委員

運営委員会のようなものがあって、責任のとれるリーダーが自分たちで話し合っ、合同でみんなに発信できる組織を作った方が良い。是非運営委員会があったら良いと思う。

中野委員

夢として語っているものを基本理念としてのフレーズに落とすとしたら、「豊かな心を育み伝える場」とか、委員の方々がこれまでやってこられた事からあふれ出た言葉がたくさんあって、どれもその通りだな、と思えるものだけでも、今までの言葉から短くまとめるところなのではないか。心が豊かだと周りに波及すると思うので、「豊かな心を育み伝える場」にしたいと思った。

清水委員

条例に書いてあるが、本来区民文化センターはどのような施設なのかある程度決められているので、何でも盛り込み過ぎてもよくないのでは。やはり文化というひとつのキーワードがある。それを押さえておかないと、何でもできる魔法の箱のようになってしまうと、ちょっとずれてしまう。

だから、瀬谷の文化とは何だろう、何を求めて公会堂と違う区民文化センターをいま造ろうとしているのか、そこは皆さんで押さえておかななくてはならないと思う。

基本は、ここにいる皆さんがやっている色々な芸術を、ここでしっかりと根付かせたいということが大きくあると思う。そこに、多くの方に来て頂いて、広めていく。そこで、多くの方が来るためには、色々な付加価値を付けなくてはならないから、街歩きをやろうとか、そういう話になっているのではないかと思う。瀬谷でこれから作ろうとしている区民文化センターの根幹的なものはいったい何なのか、ということを押さえて、それから付加価値を付けていったら良いのではないか。

それから、先ほど伝統的な事を伝えるのは難しいと言う話があったが、伝統が切れてしまったら、いったい誰がどんな風につないでいくのか。せっかくこういう場があるのであれば、本来瀬谷にある伝統的なものとか、伝えていかななくてはならない物とか、そういうものをしっかりと区民文化センターのなかに役割として位置づけないといけないのではないか。

間瀬委員長

参考資料1の中に、区民文化センター条例や各施設の違いが出ているが、それ踏まえた上で、地域の歴史だとか文化資源などを活かしながら事業として組み立てることは、区民文化センターのスタッフができる場合もある。ただそれは、皆さんと一緒に創っていくもので、運営面でかなり出来るだろうと思っている。それは演劇だけに限らず、音楽でもいいだろうし、色々な物の組み合わせで、今皆さんのおっしゃったような夢を叶えることは可能だと思う。

やはり、それを包括的にひとつの言葉にまとめなくてはならないという事があるので、事務局で今までのご意見を入れて、次回皆さんで、決められれば良

いと思う。

**宇佐美委員**

各中学校にコミュニティ・スクールがあるが、それなりにいろんな方が講座を開いている。

瀬谷の公会堂は、動としての活動ができる建物として造られている。今、私はギャラリーということにこだわっているが、多目的に使えるように区切っていくと、練習にも使えるし、個人的にお稽古もできる。そして広く使えば、皆合同で何でもできる。予算の問題もあるのであれば、重点を置くべきなのは、身体にどんな障害を負った方でも通行の出来る通路、といったような部分、設備というものは欠かすことができないので、限られた面積の中でも、そういったことを考えて頂いたら一番いいなと思う。

**間瀬委員長**

今の具体的な部屋の事については、この後の資料3のところにつながってくる。

後半は、区民文化センターの機能配置、それから施設の構成についてご議論を、というよりもまずは皆さんの思いを述べて頂ければと思う。資料3に1回目の意見をまとめたものと、施設構成のたたき台として整理されたものが載っている。

**松本委員**

イメージとしてはここに諸室が書いてあるが、建物としては、この考え方を基本とし、中身は今まで議論した内容を整理しながら案にしていって、活用度を高めていくことが大事。

ギャラリーを中心に考えると、募集した人は全部展示できるくらいの気持ちでやりたいと思っている。そういう考え方でいくと、作り方、会場の中、こういう部分には少し力を入れて欲しいと思う。

**間瀬委員長**

公募展の一番大変なのは、何枚になるか分からないと言う点。その対応ができるというのは、例えばギャラリーが膨大になっていなくても、他の諸室を組み合わせることで対応できるのではないか。

**松本委員**

出展作品の大きさを制限する等の工夫もできるが、ただ何しろスペースがないとそういう工夫もできない。そこは考えて欲しいと思う。

**新谷委員**

音楽でもなんでもそうだが、年に1回しか使わないものを中心に考えると、維持管理のことも考えなくてはいけないし、箱モノだけあって使っていない、もったいないということになりかねないので、そこは慎重にして欲しいなと思う。

それから、資料にあるような100人規模では小さく使い勝手が悪い。せめて200弱で良いので、それくらいはなんとか確保してほしい。

また、ピアノはホールにあったものを考えてほしい。

中野委員

案に載せて頂いたようなユニバーサルデザインを考慮していただければ。和の雰囲気という意味からも、白っぽい木目だったりすると、落ち着くことができると思う。

鈴木委員

ホールについては、やはり最低 200 席くらいあった方が利用価値があるのではないか。

それから、知らせる努力という面から言うと、例えばギャラリーでも音楽とのコラボをやると、音楽と美術の人が互いに興味を持つことになる。絵に合わせて曲を演奏する等、そういうことをやっていけば、お互いに色々な面を勉強できるのではないか。

間瀬委員長

コラボレーションということになると、区民文化センターがジョイントの役割を果たさなくてはいけないと思う。和と洋をジョイントしたり、和の中でも違うジャンルの人をジョイントしたりというのは、実は区民文化センターの中にいる職員というのが一番よく見える。ジョイントのできそうな人や団体というものを見極めていく。もうひとつは、実際に活動をしている各団体がジョイントして、ホールに持ちこむということもあるが、なかなか文化団体がもう一歩踏み込むのが難しい部分があると思う。

実体で言うと、それを上手くジョイントできるのは、区民文化センターに専門スタッフを置くという方法で可能性があると思う。そのためには、そういうスタッフのための部屋があると良いと皆さんの話を聞いて思った。

清水委員

色々な話があったが、一番いいのは自由に使えて、スペースを自由に取れること。

もう一つは、富士山の話があったが、瀬谷らしい区民文化センターということでもう一つ挙げるなら、やはり富士山だと思う。屋上利用というのは全然考えていないのと思うが。

事務局

考えていない。

清水委員

屋上があったらあの辺りで富士山を見ながらゆっくり、たまにはそこで小さな野外ライブができたりとか、というのは難しいだろうか。できれば、外を感じられる場所があると良いと思っている。瀬谷区役所の前に公園があるが、皆ほんとうにのびのびと使っている。美術館とかコンサートホール等に行って、そこで観たり聞いたりするだけではなくて、ちょっとお庭をゆっくり見て、作品と一緒に心安らいで帰ってくる、というようなことがある。おそらく、瀬谷

の駅前では、とても周りの景色などというものは難しいだろうから、もし屋上  
が使えたら、屋上がそんなような場所になると、また瀬谷らしい区民文化セン  
ターになると思う。

小川委員

建物は基本的に何回建てで、敷地面積はどれくらいなのか。

事務局

ビル全体は、先ほど説明があったように複合ビルになる。今のところ区民文  
化センターは2階あたりと想定している。10階建て程度になると考えている。

小川委員

できれば音響、展示、大勢の人が集まる空間、そういった事を考えると、普  
通の天井の高さで造られると、少し窮屈であると思う。

間瀬委員長

例えばギャラリーなら最低このくらいの高さが欲しい、展示壁が何m欲しい、  
というような意見・要望として頂ければと思う。

小川委員

区民文化センターは、建てた後最低数十年は持たせることになると思う。こ  
こで建ててしまったら、次また建てようということは無理だと思うので、でき  
るだけ気持ちを汲んで頂きたい。

事務局

次回以降の委員会でも意見等をお示し頂いた上で、最終的に基本構想検討  
委員会で頂いた意見を、市の再開発を担当する部署と、これを建てる部署の方  
に届ける。是非、今はこういうものは、これくらいの形で、これくらいのもの  
が欲しいということを書いて頂ければと思う。

松本委員

ちょっと心配事があるが、ここで言ったことが設計に反映されないというこ  
とになる、そこが一番気になる所。

小川委員

ランニングコストを補てんできる造りにしておくことも考慮しないとけな  
い。

間瀬委員長

そういう意味でも、今日のこの会議は大事だと思う。基本構想として、我々  
がこの新しい瀬谷の区民文化センターに、最低限これだけのものを付けて下さ  
いという要望だけは出すようにしたい。

宇佐美委員

高さや広さ、そしていかに実質的に使えるかが重要。どこの地区センターに  
も茶室はついているが、正式に使える茶室はひとつもない。皆さん、茶席をつ  
くるときに工夫して使っている。そういうことなので、宜しくお願ひしたい。

浅野委員

各階層にあわせた、一つの顔を持った展示場及び、ニーズに対応できる空間というものを造れば良いと思う。

地下であれば防音装置はあまり必要ない。エレベーターを一つつくれば、搬出搬入の部分も解決できる。それから地下であれば、コンクリートの打放し、天井仕上げなしでも良い。その代わりに、そこで練習しながら発表の場に変えることができるような空間を、展示空間を含めてつくる。そうすれば、未来型のアートの若者たちの、パフォーマンス、インスタレーション、映像、こうしたものも網羅できる。1階はもちろんエントランスにも使うけれども、そこに小洒落たギャラリーとして使えるちょっとしたスペースがあると良い。それもギャラリーとしてだけではなく、例えば少人数の管弦楽のような音楽的な要素ともコラボできるようなものであれば。2階はやはり展示スペースとなる。大華展・大茶会を瀬谷区はやっているが、そうしたお花を展示できるように、あるいは彫刻を展示できるように、畳を出せば空間が和的なものになって、水場までは無理かもしれないが、そういうことが考慮できるような空間に。それから3階は事務室、レクチャールーム。という4層建てにすると、各階の顔が見える空間ができる。それを、平面に配置して横のつながりにしてしまうと、なかなか見えない。

そういう意味では天井高も大きな絵を掛けないのであれば、3mあれば充分。そのような天井高でも条件はクリアしていけると思う。50号の絵や写真を展示するのであれば、そこにパーティションをうまく組めるように考案していただく。可動式パネルというのは、お洒落で良いのだけれども、使いづらい。だったら、仮設パネルを用意して、それを常備できる部屋を用意して対応していくようなフロアと、1階などは天井から吊るすような移動パネルで対応する等、各階それぞれの顔が変われば、展示や他の用途にも対応できるスペース、空間にすることが可能であると思う。地下1階は、駐車場ができて3.8m位あるのならば、劇場でやるのではなく、スペースの中でやるようなタイプの演劇系のパフォーマンスができるような空間にすることができれば、色々使い道はあるのではないかと。

間瀬委員長

ギャラリーを音楽利用しようとする、どうやって遮音するかの問題が起きる。外の音が入ってしまったりは困るし、中の音が出るのももちろん問題。遮音というのは相当大事な問題だが、これは建築の方で色々御苦労頂くことになると思う。

それから今のご提案が、地下1階から地上3階までの専有ということだったが、1フロアだけということもあるかもしれない。これは今のところご希望として伺っておくことにする。

浅野委員

サンハートも良く考えられていて、後ろの方などを上手く利用出来ればすごく良い空間にできると思う。ただ、それを今は使いきれていないのだと思う。

大人数を入れるときにどうしたらいいか、それから小分けの部分でどう使えるか、アイデアを出していくと有効活用できる。

間瀬委員長

今、ギャラリーと、この区分けでいくと音楽ルーム、リハーサル室、この辺のことについてご意見が出てきたが、通常の練習室とか会議室についてはどうか。何かご意見があるか。

松本委員

サンハートには練習室があった。

間瀬委員長

確か4部屋あった。ドラムセット、ギターアンプ等を入れた部屋が3つあった。全てボックスインボックスとあって、中にもう一部屋あるような形で遮音されている。なので、ドラムをどんなに叩いても外には全然聞こえない。床下から切り離されている。

ここでも何室用意できるかは別としても、小グループでの音楽練習というのがこの瀬谷でも必要なのではないかと、ということで素案の中にも入っている。

新谷委員

さっき言った運営委員会やサポートする人たちが付くということが可能なのであれば、小さな会議室があるといいなと思う。

中野委員

施設等で小さな音楽室を借りるときに、電源コンセント一つにいくらという具合に細かく積算されていくようだが、あれはどうしてなのか。

間瀬委員長

受益者負担という考え方になっている。区民文化センターの場合は、なるべく安く利用して頂こうということで、部屋の利用料金には、付帯設備料金が含まれていない。その上で、使用した分の付帯設備料金を払ってもらう。そのため、あのように細かい料金設定になっている。

ギャラリーについても3mくらいの天井高で、分割したりして、大きく使ったり、間仕切りして細かく使ったりといろいろな使い方ができるようにという話と、ベニアの上にクロスを貼ったパネルにしてくれというような話があったと思う。

浅野委員

パネルの話について問題があるのが、ピンが打てないということ。穴が開いたら埋めればいいだけの事。

間瀬委員長

これは大切だと思う。ベニアにクロスをかけてペンキで仕上げることは大事だろうと思う。これは基本的な積算には入ってきてしまう話だと思う。ラスボードで壁面仕上にするのか、ベニアにクロス張りかというのは、建築費にも係ることなので。

それからレールで動かすパーティションよりも、むしろ仮設のパネルの方が

良いという意見があった。

浅野委員

どこの区民文化センターでも動かすパーティションを使っているが、あれだと細かい対応ができない。コーナーとコーナーのセッティングに非常に不具合が出てくる。であれば、両方合わせられるようなものがあればよい。移動パネルがあれば、そういう対応が可能になる。

間瀬委員長

天井高が3m位だとすると、高さ2.8mくらいの移動式のパネルが必要になる。それを収納する倉庫が沢山必要になってくる。それも設計に係ってくることになる。

浅野委員

収納する空間というものは、出してしまえば代わりのもを入れることもできる。ある程度コンパクトにすれば、そんなに平米数を取ることもないと思う。

間瀬委員長

どちらにしても、小物を色々置いておかなくてはいけないので、収納庫は必要になるが、どうしても部屋を大きく取るために、区民文化センター規模の建物の場合、倉庫が小さくなってしまう。そのために、天井つり下げ式の可動パーティションになっている。別の物を導入することになると、そのための別の倉庫が必要になる。

音楽ルームなどでも、ピアノが置きっぱなしになっていることが多い。音楽ルームには、ピアノ庫とか備品庫を設置し、ピアノをそこにしまっておく。そうすると、音楽ルームでコンサートとしての発表会をするときにはピアノを出してできる。収納については相当に、部屋ごとにご配慮頂ければと思う。

松本委員

式典とか、懇親会ができる部屋も中に入れてもらえれば。

間瀬委員長

この資料でいうと、音楽ルームというかりハーサル室で、100人規模の立食パーティができるようにと書かれている。

松本委員

その部屋の中の工夫が必要になってくる。

新谷委員

今は音楽ホールで全部片付けて平土間にするものはよくある。そういう仕様ならばできる。

間瀬委員長

管理側からの話になるが、そうした飲食を提供する際には、出せるものには限りがある。配膳室や冷蔵庫などを置かないと、許可が下りない。きちんとした料理を出そうとすると、通路の向こう側に冷蔵庫を置いた、調理配膳室を持たないといけなくなる。それが大体20畳くらいは必要になってくる。

浅野委員

それは別に、商業スペースが再開発ビルの中であれば、そこから取るということでは対応ができるのではないかと。ケータリングでやるという発想を持てば解決できる。

間瀬委員長

ケータリングであれば問題ない。ここでは、ギャラリーなのか音楽ルームなのかは別として、パーティができるような場所が必要になってくるということ、皆さんのご意見としてまとめてよろしいか。

それから、会議室も小規模で良いので置くようにして欲しいという意見もあった。

ギャラリーで大規模なものをやることを考えると、例えば廊下であるとか音楽ルームや会議室にもピクチャーレールを用意するということが対応を考えるということではよろしいか。

浅野委員

エントランスは、空間を大きく取っていて格好良いが、その使い道を考えていかないと。その部分でパフォーマンス等ができるような考えがあると良い。また天井にビスを打っておくだけでもインсталレーションはできる。ビスを打っておかないと、天井から吊るせない。そういう、使い勝手の部分でのちょっとした配慮、工夫をしてもらえれば、それほどお金を掛けることなくできるのではないかと。

また照明も今は LED になっているので、絵に直接当てる照明を考えなければ、それほどスポットに使う予算を考えなくても良いのではないかと。

間瀬委員長

LED の照明器具はどの程度で使い物になるかというのは、あと 2～3 年はかかると思う。ただ、管理者側からすると、電気容量が一番使うのは舞台、そしてギャラリーになる。ギャラリーはずっと点灯させているので、LED にしたいというのは本音。そうすると、使用料対経費のバランスというものが見えてくる。今の状態だと、使用料が、電気代の半分くらいかもしれない。

大体今のご意見でよろしいか。この辺りでまとめさせていただく。次第に戻ると、文化芸術活動の展開については次回ということで、今日は意見交換の上 2 つの項目について意見を頂いたということで、これからまとめていければと思う。

(以上)